

e-dream-s 通信

No. 101 発行：2009年7月12日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

今月101号は、来月に行なわれる定時総会について、カンボジア・ツアー参加予定者の声などをお届けします。そしてサンフランシスコ便りは最終回となりました。どうぞお楽しみ下さい。

目次

1. 第10回定時会員総会の成功を！	中川 房代	p. 2
2. 待った甲斐	辻 荘一	p. 4
3. 大学のお仕事	井川 好二	p. 5
4. 高速バスの旅で見た風景	塚本 美紀	p. 9
5. カンボジア・ツアーに向けて	稲川 宏美	p. 10
6. カンボジア・ツアー参加にあたって	室山 佳子	p. 10
7. 初めてのカンボジアへ	新谷 幸子	p. 10
8. 充実した旅に	按田 志貴子	p. 11
9. 語ることができるように	岡田 かおる	p. 11
10. <サンフランシスコ便り⑩> 帰国準備：Moving Sale	山田 昌子	p. 12



カンボジア・トンレサップ湖の水上生活の家。湖上には住居はもちろん商店や学校、病院などもある。湖の面積は東南アジア最大で、乾季の時で約 3000 平方キロメートル、雨季には 3～4 倍にもなるという。11 月～4 月は乾季。(2001.1…Ryoji) (@aglance より)

第 10 回定時会員総会の成功を！

中 川 房 代

来る 8 月 22 日に e-dream-s 第 10 回定時会員総会を開催します。皆様のご参加をお願いします。

2000 年 3 月に産声を上げた e-dream-s は、2000 年 7 月に大阪府より NPO 法人の認証を受け、以来 9 年間活動を続けてきました。定時会員総会は、過去 1 年間の事業の報告と今後の事業計画を確認する場として、毎年 8 月末に開催しています。正会員の皆さん、ぜひその場にお越し頂き、論議に参加し、議決権を行使してください。賛助会員、また e-dream-s の活動にご協力くださっている皆さんも、是非ご参加ください。そして、e-dream-s の活動へのより一層のご理解とご協力を頂ければ幸いです。どうかよろしくをお願いします。

この 9 年間、e-dream-s は様々なプロジェクトを行ってきました。大きな事業としては、まず「写真アーカイブ@aglance (アット・ア・グランス)」事業。私たちが撮り溜めた海外の写真を学校などで教材として使ってもらおうと、1 万枚もの画像の図書館をネット上に公開し、多くの方々に教育目的で使って頂きました。そこから海外の日本語学習者からのリクエストによって画像を掲載する「オンデマンド日本写真」も開きました。

そして私たちの得意分野である「海外研修ツアーの企画・実施」の事業。2000 年 3 月の台湾プロジェクト（地震支援）に始まり、アジアツアー：モンゴル、タイ弾丸ツアー、ACROSS イギリス合宿、ACROSS マレーシア・シンガポール合宿、カメルーンツアー、アメリカ・チャータースクール視察ツアー、ロシアツアー、インドツアー、韓国・早期英語教育視察ツアーと、実に多くのツアーを企画し、皆様にご参加頂きました。

また、日本と韓国を結ぶプロジェクトとして、両国の英語教師での文化理解・英語教育研修の場を企画しました。「ECAP (Educators' Collaboration of Asia- Pacific)プロジェクト」として起ち上げ、2003 年から 2008 年まで 6 年間、毎年、日本または韓国で研修を開催し、両国から多くの英語教師が参加して、相互理解を深め、多くのことを学ぶ機会を提供することができました。

更に、今後、私たちが柱としたい事業が「カンボジア・プロジェクト」です。2008 年 2 月の CamTESOL 2008 (カンボジアでの英語教育研究発表の学会) 参加・研究発表から始まったカンボジアとの関わり。そして、2008 年 8 月のカンボジア視察ツアーの企画、2009 年 1 月のカンボジア英語教師・ソコム先生の招聘、2 月の CamTESOL 2009 への参加・研究発表、6 月第 31 回理事会へのソコム先生の参加、と、この 1 年半でカンボジアの人々との関わりを深めることができ、e-dream-s の教育支援事業として「カンボジア・プロジェクト」を考えるとこころにまで発展してきています。

今回は第 10 回記念の定時会員総会として、10 年間の歩みを振り返り、今後 10 年間で展望する会にしたいと考えています。おそらくは残暑厳しく、またお盆明け・仕事始めの忙しい時期になりますが、皆さんと一緒に意義深い会にしたいと思っておりますので、ご参加をお願いします。

【第 10 回定時会員総会】

* 日 時：8月22日（土）15：00～16：30

* 会 場：たかつガーデン（大阪市天王寺区）

* 議 案：

(1) 第 1 号議案 昨事業年度（2008年6月1日～2009年5月31日）事業報告承認の件

(2) 第 2 号議案 昨事業年度収支決算承認の件

(3) 報告事項 今事業年度（2009年6月1日～2010年5月31日）事業計画
及び予算について

(4) 第 3 号議案 定款改正の件

(5) 第 4 号議案 次期（任期：2009年9月1日～2011年8月31日）役員選任の件

(6) その他

* 総会後、パーティを開催（大阪市内を予定）

* 詳細は、別紙にて案内します。

待った甲斐

辻莊一

妻の弟、つまり私の義理の弟であるT君の結婚式と披露宴が先日行われた。今年見合いをしてお互いを気に入り、その後話はトントン拍子で進んだらしい。ともに初婚である。T君はこれまでの何回も見合いをしていたのは知っているのだが、ご縁がなかった。「もう歳も歳だしずっと独身だろうな。このごろはそういう人も多いし」などと内心思っていたので、まさかの結婚である。人生はどんな出会いがあるか分からない。

ご来席をお願いしますという招待状をもらって家族総出で出席したわけだが、さすがにただ知人の結婚披露宴に出席する時と身内では忙しさが違う。髪や着付けのこともあるので、式が始まる何時間も前から集合しなければならないし、娘二人は受付、息子は折悪しく足首を骨折して入院していた義理の母の送り迎えを頼まれている。私の役目は写真撮影と乾杯のスピーチだ。

普段、土曜も日曜もない生活を送っているので、当然仕事にも影響が出てくるし正直少し面倒くさいと思うこともあったのだが、両家の親戚一同顔を合わせて、新郎新婦の三三九度や声を合わせての誓詞と型通りに神式の結婚式が進むにつれて、家族や親戚がそれなりの手間と時間をかけて協力して1つの行事を行うのもいいものだと感じるようになってくる。

披露宴の出席者には殆どが両家の親類、新郎は40歳代新婦もそれなりの年齢であるからか、若い友人がはしゃいだ芸をする等という事もなく、落ち着いた暖かい宴となった。二人とも初々しく、緊張しているのが微笑ましい。両家ともすでにお父さんがなくなっているのが残念であるが、二人の母親はホッとしているに違いない。小さい頃から義弟を知っている叔母が、涙ぐんでいる。

新郎新婦とも20歳代、30歳代のときは出会いがなかった訳で、その時はもう出会いはないのかも知れないと本人も周囲も思うこともあったかもしれないが、真面目に人生を送ってきて、こうしてこれはという人と出会い結婚まで漕ぎ着けてみれば、最初からそう決まっていたような気がしているから不思議である。

乾杯のスピーチでは、簡単に新郎新婦の幸せとご両家の発展を祈るだけにしておくつもりだったが、ちょっと気が変わって、短く「待った甲斐があったね」という話をした。そして自分にも、もちろん結婚ではないけれど何か待った甲斐があったと思える瞬間があるといいなと思ったのである。

大学のお仕事

井川 好二

私鉄の駅舎を出て歩きだすと、ザアッと降り出すいきなりの雨。夕方のアスファルト道をビシャビシャ叩く。昼間の熱気や砂埃を、一気に洗い流す勢いは良いのだが、傘を持たない横着者は、このスコール¹もどきにやや閉口。まあ、しかたないかと、鞆を頭に、ヒョイヒョイと水たまりを避けつつ、もう近い馴染みの割烹へ急ぐ。

海老茶の暖簾を潜って、引き戸を開ければ、着物姿の女将が、

「あら、センセ・・・」

「まいど！」

「けど、どないしはったん、ビショビショ・・・」

「傘持ってへんねん」

「あらあら、タオル持って来ましょ」

「すまん、すまん」

シャンプーしたほどに濡れた髪をバスタオルで拭い、上着をハンガーにかけてもらうと、白木のカウンターを前に座って、ビールが来るのを待つ。やれやれと気持ちが落ち着いてくるひとときである。

職場で朝から長い会議がいくつもあって、他人の無責任な言動にイライラし、いわでもの事を云って、心がささくれだつ。そんな日の終わりには、美味しい肴と一緒に、アルコールを少し補給しておくのが良い。やわらかな気持ちが蘇る気がする。

「今年の就活²は、かなりしんどい」

「そない、聞いてますけど」

「ウチのゼミでも、まだ40%くらいしか、内定³貰ってない」

「半分いきませんか。そら、大変どすなあ」

「景気悪いからな。大学全体では、30%かな」

「去年とエライ違いどすなあ」

2010年の春に卒業して就職する予定の大学4年生の就職活動は、厳しさを増し、企業から就職内

¹ 熱帯地方特有の激しいにわか雨。強風や雷を伴うこともある。[明鏡国語辞典]

² ◆就活〔若者のことば〕就職活動。[株式会社自由国民社 現代用語の基礎知識 2006年版]

³ ない - てい【内定】名・自他サ変 正式の決定の前に内々に決まること。また、決めること。「就職が一する」[明鏡国語辞典]

定の出た学生は、前年より 10 ポイント以上少ない。厳しい厳しいといわれ、昨年の秋から、じっくり就活をやってきたはずなのに、である。未だに内定の出ない学生のモチベーションは、グリーンと下がり、もう一般企業への就職は諦めたと云うものも多い。

もともと教員志望の学生は、夏の教員採用試験を目指しているのですが、まだそちらに夢をつないでいるのだが、それ以外の学生にとって残された道は、公務員試験を受けるか、いっそのこと、留学、または留年。あるいは、現在のアルバイトを続けて、アルバイト先での正社員採用を目指すか？無論、今から来年の3月卒業まで、就職が決まる学生も出るに違いないのだが、数はそれほど多くないと見られる。いずれにせよ、ゼミ学生の7割近くが内定を貰っていた昨年の今頃に状況とは、大きく様変わりした今年の7月なのである。

大学として、こうした内定が出ていない学生に、どのような対策で臨むのかが、問われている。かつては、「就職課」と呼ばれ、現在は「キャリアセンター」と云う名称の部署が、学生の就職指導、ガイダンスにあたっているのだが、この100年に一度と云われる不況の中で、キャリアセンターも、思うように実績をあげることができていない。

このキャリアセンターの要請で、教員の大半が、年2回、会社訪問にかり出される。目的は、単に企業への挨拶だけではなく、学生を採用して貰った企業にはそのお礼、今後の採用予定の確認、今流行のインターンシップ制度⁴に関する調査、採用したい学生像の調査などである。

インターンシップとは、大学生などが、主に三年の時期に、専攻や将来の進路に即した就業体験をする制度のことである。もともと、企業と学生双方のニードが合致させることを狙い始められた制度であるが、不況下の今、企業は消極的、学生は積極的。

⁴◆インターンシップ (internship) [教育・学校] 大学生などが、在学中に自らの専攻や将来の進路と関連した就業体験をする制度。産学連携の一環であるこの制度は、専修学校や一部の理工系の大学で先行して実施されてきたが、近年、各大学や企業が積極的に進めている。大学での研究が社会と乖離している状況を改善し、また学生に職業に関する情報に接する機会を提供することによって自己の適性を把握し、早期の離転職を防ぐことができるという効果をも狙っている。ただ、企業による新たな青田買いにならないか、報酬を支払うか、教育活動の一環として単位を認定するか等の問題も残っている。[株式会社自由国民社 現代用語の基礎知識 2008]



鰻の白焼⁵

「センセのお好きな鰻の白焼⁶」

「おお！」

「静岡から美味しい鰻が入りましたよって」

ふっくらとした鰻の白焼に、山葵が添えてある。「お酒にしましょ」と女将が運んできたのは、泉州の酒「荘の郷」の純米吟醸。冷酒と鰻の白焼のマッチングは、蓋し最高である。

「姪の弥生も、この間3年生になったばかりやのに、もう就活がどうの、エントリーシートがどうの云うてます」

「まだ、3年やろ、ちょっと早いで」

「そない云いましてんけど、何や、かなり焦ってるようどす」

「秋になってからでエエて、弥生ちゃんに云うとき」

「けど、センセ、エントリーシート⁷て、なんどすのん？」

エントリーシートとは、学生が書く各企業への就職希望書のような書類で、履歴書を兼ねていることもある。最近では、インターネット上で、エントリーシートを送付する形式が増えている。就職を希望する学生は、まずこの関門をクリアしなければ、試験も面接も受けられないシステムになっていることが多い。

こういう厳しい時期は、大学にとって勝負の時期でもある。100年に一度の経済不況で就活がままた

⁵ 見田盛夫(2006)『東京五つ星の鰻と天麩羅』東京：東京書籍 p. 21

⁶ しら-やき【白焼き】魚肉などを調味料をつけずに直火(じかび)で焼くこと。また、そのように焼いたもの。「鰻(うなぎ)の一」[明鏡国語辞典]

⁷ ◆エントリーシート [現代就職キーワード] 興味をもった企業に応募の意志を示し、選考へ「エントリー」する書類。履歴書を兼ねる場合も多いが、自己PRや志望動機に関する企業独自の書式によって、よりその人物像が伝わるよう工夫されている。この書類によって選考を行う企業もある。[株式会社自由国民社 現代用語の基礎知識 2005年版]

らないのは、どの大学でも同じ。その難しい局面で、どう学生を支援することができるかが、どれだけの学生を希望の進路へ進めることが出来るかが、各大学の腕の見せ所なのである。

基本的には、未内定の学生に、就職活動を諦めさせないこと。まだまだ、これからも、内定をとれるチャンスのあると云うメッセージを伝える続けること。大企業、有名企業の募集は終わっているが、中小企業や無名の企業では、現在でも人手不足の上、募集もままならないと云う。

「ミスマッチやねん」

「どういうことですか？」

「学生が行きたいと思う会社と、学生を欲しいと思ってる会社が、マッチせえへん」

「すれ違いですか」

「ええ会社いっぱいあって、正社員欲しい云うてるのに、学生はそんな会社あるのも知らん」

「親御さんも、こんな時代やから、大きい会社へ行け、云わはるやろし」

「それを、うまいことマッチングするのが、大学の仕事」

「なんや、ハローワークさんみたいどすな」

「そや、そう云うサービスがうまい事だけへんようでは、これからの大学はあかん」

全入時代と云われる今日、大学の役割も、変わらざるを得ない。キャリアセンターだけの話ではない。学生センターも、教務課も、図書館も、大学の全ての部門が、新しく役割を担わざるを得ない。そして、その変化に対応できる大学のみが生き残れる時代なのである。

「下の娘も、今、大学4年やけど、この間、やっと内定貰いよった」

「おめでとうございます！きいてええもんやら・・・て思てましてん」

「ありがとう、お陰さんで、決まって、ほっとしてるわ」

「ほな、今日は、お祝いですね」

不況を引き金に、就活が難航する今日、大学教育の質が問われている。授業による教育サービスと、授業以外の教育サービスの、両方の質が問われているのである。ピンチはチャンスと、この局面を両方の質の向上に努める大学が、生き残るのである。勤務校が生き残ることを祈るばかりではなく、生き残るための働きができればと思う。

夏の夜は、ゆっくり更けていく。明日は快晴か？(Saturday, July 11, 2009)

高速バスの旅で見た風景

塚本美紀

大阪駅では何度か、キャリーバッグを人にぶつけて怒られたことがある。田舎者の私が、たくさんの人の波の邪魔になってはいけないと十分注意して歩いているつもりでも、弁天町に行くには内回りだったかしら、とか、御堂筋線に行くには改札を出てどっちに行くのだったかしら、などと考えながら歩いていると、時々人の通行を妨げてしまう。けれども、朝早い大阪駅の風景は、私が知っている大阪駅とはまったく違っていた。

今年の4月から、用あって大阪に行く回数が増えた。北九州から大阪に行くには、新幹線以外考えたこともなかったが、せっかく何度も大阪に行っているのだから、いろんな方法を試してみようと、先月の末、初めて高速バスを利用した。午後11時30分に小倉を出発すると、翌朝の7時前には梅田に到着する。いつでもどこでもすぐに眠れる私にとって高速バスは快適な乗り物で、飛行機のビジネスクラス以上に余裕のあるリクライニングシートに体を埋めると、すぐに眠りに落ち、次に目覚めた時にはもう大阪に着いていた。

まずはお化粧を、と思い、大阪駅の化粧室に行くと、20人近い若い女性が思い思いにお化粧をしていた。歯を磨いたり、コンタクトレンズを装着したりしている人もいる。その様子は手馴れたものだ。各地から高速バスで今朝到着した人たちだろうか。この週末のバーゲンを目当てにやってきたのだろうか。化粧室を出て、駅構内を歩くと、中高年の旅行グループが目立つ。白い装束のお遍路さんのような人たちや、リュックを背負った山登りの人たち。眠そうな化粧室の若者たちと違って、中高年は元気だなあなどと思いながら、人の流れに注意する必要もなく、少しゆっくり歩いた。歩いている人も少なく、少しのんびりしている。見慣れたはずの大阪駅の違う一面を見たようだ。少し行動を変えるだけで、いろんなことが見えてくるのが楽しい。

e-dream-s はカンボジアへの教育支援の計画を進めている。長年英語教育や教員研修に携わってきた私たちが、少し視点をかえて、カンボジアの若者たちの英語学習をサポートしようとしている。その道を探る過程で、CamTESOL に出会い、発表をし、そこでは英語教育に携わる様々な人々に出会った。その輪も広がりつつある。教育支援の活動を通して、長年携わってきた英語教育も、新たな視点から見ることができるのではないかと思っている。

今年の夏もカンボジアに行く。そこで出会う人たちや、これまで出会った人たちとの新しい展開を楽しみにしている。そして何よりも、今回は多くの e-dream-s の仲間たちと一緒にその経験をできるのが楽しみだ。慌しい CamTESOL の旅とはまた違う、新しい風景を皆で見たいと思う。

カンボジア・ツアー参加者の声

カンボジア・ツアーに向けて

稲川宏美

カンボジア・プロジェクト：SEECの準備もいよいよ始動。

人に説明するのに何も見てないってわけにはいかないので、この夏のツアーには参加しなくてはと滑り込みで申し込みました。色んなところをじっくり見て、自分の中のモチベーションを高めてきたいと思います。

カンボジア・ツアー参加にあたって

室山 佳子

カンボジアと言えば、ポルポト政権の大量虐殺がすぐ頭に浮かんできます。昨年カンボジアを旅行した人から、カンボジアの人は40歳以下の人ばかりだったと聞いています。冬合宿に参加いただいたソコムさんが26歳という若さで、英語の先生に英語を教え、あんな立派なスピーチが出来ることに圧倒されました。現在のカンボジアを自分の目で見てきたいと思います。これから夏休みなので少しずつ事前学習に取り組みたいと思います。一つ恐ろしいのは、夏の暑さがどんなものかということです。雨季でもあるようなので体調には十分気をつけたいところです。

初めてのカンボジアへ

新谷 幸子

5月に辻先生から CamTESOL の報告をしていただき、また、参加された皆さんの報告集も読ませていただいて、いつもながら e-dream-s の活動の幅広さや奥深さを実感するとともに、今まで未知であったカンボジアの文化や歴史、人々の暮らしに興味を持ちました

そんな折、ちょうど授業でも高1の教科書にカンボジアの話題（日本人高校生の学校建設の話）が出てきて、これは何かの縁かもしれないと思い、自分の目で見て、体験してこようと、参加を決めました。

企画してくださっている塚本先生からのメールを開くたび、初めてのカンボジア旅行に、“ワクワク感”を募らせております。このようなチャンスを作っていただき感謝しています。どうぞよろしくお願いたします。

充実した旅に

按田 志貴子

今回、初めて e-dreams の海外研修に参加させていただくことになりました。CamTESOL の報告会や合宿でのソコムさんのお話を聞くうちにどんな所だろうかという興味がわいてきました。今はただ漠然と初めてのカンボジア行きに期待するばかりですが、e-dreams の活動について理解を深めるとともに、自分自身の今後に生かせるよう、充実した旅にしたいと思います。

語ることができるように

岡田 かおる

「今年もどこか行くのですか？」時々会って話をする元同僚に聞かれた。

「これこれで」と e-dream-s の活動を簡単に説明して、「カンボジアに行くんですよ。」と私。「カンボジアって何語でしたっけ？」と聞かれて「クメール語じゃないかな？」と私。「カンボジア語じゃないの？」とつっこまれて「うーん、そうでしたっけ？とにかく英語は仕事を得る上でもとっても重要になっているんですよ。」とごまかす。「どのくらいかかるんですか？直行便ってありましたか？タイ経由ですか？」と聞かれ、「確か直行便はないけど、どこ経由するのだったっけな？」何もかもあやふやだ。情けない。家に帰って、調べるとカンボジア語は正式名がクメール語であるとわかった。私たちが行くのはホーチミン経由。バンコク経由で行く方法もあるとわかった。

8月に初めてカンボジアに行く。今まで CamTESOL ツアーや視察ツアーに参加したメンバーからの話や報告を聞いたり、画像を見せて頂いたり、カンボジアについての通信の原稿や報告集を読んだり、また冬合宿や理事会にいらしてくれたソコムさんのお話やご自身を通して、カンボジアについてある程度知り、そのお国柄、人々のイメージが少し持てるようにはなった。が、まだ人に聞かれた時にきちんと話せる材料や知識はない状態だ。e-dream-s の一会員としてカンボジア英語教育支援プロジェクトについて考えていく上で、実際に自分で見て、感じて、考えたいと思った。そして自信を持って e-dream-s のプロジェクトについて語ることができるようにしたい。

帰国準備 : Moving Sale

理事 山田昌子

6月20日(土)。サンフランシスコを離れる日が近づいて来ました。様々な準備が必要です。本(教科書等)とペーパー等は、5月末クロネコヤマトの宅急便を利用しました。郵送に1か月かかり、私が帰国しないと日本の港から自宅まで送ってくれないので、5月末郵送がちょうどいいのです。ロコミで、クロネコヤマトなら10箱で\$780(1箱25-30kgまで可)、一番安いと知りました。結局、衣類や着物等も含め、9箱郵送しました。

郵送しない衣類等、どうしようかと考えた挙げ句、アメリカ文化体験をしたいとガレージセールをすることにしました。まあ、私の場合は "Moving Sale" です。私の大家さんは自分のガレージでそれをするのを嫌がるので、同じSunset地域に住むアメリカ人の友人Dさんに頼みました。早速、クレグリストに宣伝をしました。小さなヒーターと日本から送って貰った机上灯他、他の人からいただいた服やお皿、コップ、プラスチックの衣装ケース等もあります。売れなかったものは、福祉団体⁸が車で貰い受けに来てくれるそうなのです。

昨日は、以前に運んでおいた荷物をガレージに出し、服をハンガーにかけたり、食器を箱から出したりして、最後の準備をしました。今日は当日、朝から何だか落ち着かなく、いつもよりちょっと早起きをしてあれこれ考え、バスに乗ってガレージを貸して下さるDさんのお宅に向かいました。Dさんは体調がよくないらしく「昨晚は寝られなかったのよ!」ちょっと浮かない表情。でも、「10時10分前にガレージを開けて準備をしましょう。それより早いと、人が集まってきちゃうからね。」

とはいえ、電柱に宣伝ポスターを一杯貼ろうとかインターネットで一杯宣伝しようとか思っていたけど、あまりできなかった上、Dさんのお宅はSunset地域のはずれ、ビーチのそばにあります。霧がでて寒くなると、通りには誰も通っていないことも稀ではありません。前日友人のPさんが「収穫はどれ位期待しているの?」と聞くので、私は「きっとあまり人が集まらないから、収穫は\$30あればいい方だと思うわ。でも、金儲けじゃなくて、私はアメリカ文化体験がしたいの。日本ではガレージセールなんてしないもの」



Dさん曰く「以前この辺りで女の子がガレージセールをしてたんだけど、無職の男性がガンを向け『金を出せ』、ガンを発射して女の子が足に怪我をしたということがあるの。1人で店番をするのは危険よ」体調の思わしくないDさんに手伝ってもらうのは悪いとずっと思っていたので、私はどうしようかと心配になってしまいました。

⁸ Association for Retarded Citizens of the United States (ARC).
<http://www.thearc.org/NetCommunity/Page.aspx?pid=183>

その上、Dさんは「この地域はとても寒いから、外でずっと座っているなんてできない。ガレージを少し開けるから利用しなさい」ウーン、そうすれば絶対大きな通り（Moraga St.やLawton St.）から見えない、もっと人は集まらないよねえ」と私は懸念していました。

ところが、珍しく、霧や風がなく、ポカポカ陽気のいい天気となりました。着ていたスウェットを脱いで半袖になりましたが、外にいると暑くてたまりません。ガレージの中で店番をさせていただき、正解でした。それに、お天気がいいと人通りも増えます。1人で店番をしても大丈夫！通る人に「How're you doin'?"と言って声をかけることもできました。

10時前、服や文房具等を外に出し、机上灯やヒーター等は中に置き、張り紙をしました。近くの電柱にも、張り紙をしに行き、準備完了。私が大きな通りまで張り紙をしに行っている間に、近所の人たちが数人物色に来られたようでした。

果たして、お向かいのご婦人が来られましたが、「ガレージセールをするようなものはうちにもあるしねえ」私はすかさず「ふとんはどう？これ、日本製ですごく暖かいんです！ダウンも入っているのよ。日本では確か\$70もしたんですよ。それがたったの\$5なんです！」あまり高いと買ってくれないと思い、私は思わず安くしてしまいました。「じゃあ、買うわ。」私は心の中で「やった！」と大喜び。この調子でいろいろ売れるといいんだけど・・・

次にやってきた男性は、服には目もくれず、「本、ある？」たまたまほとんど沙羅の本を2冊持って来ました。1冊は、南米旅行に行けなくなったけど買ってしまったペルーの旅行ガイドブック（Lonely Planet）。「いくら？」「これ、買ったばかりで新品同様、もともとは\$23もするんです。\$10です。」という「じゃあ、いいわ。」凄く安くしたのに何故？とDさんにこの話をすると「ガレージセールに来る人はもっと安いのを期待してくるから、さらに安くしなくちゃ。」「\$5位かしら？」「そうね。」

恐らく全部で25名の客があったと思いますが、ほとんどが近所の人と私の友人。一部craigslist⁹を見て車で来られた方もいました。でも、「庭で使うホースある？」「ケーキを焼くのに便利な大きなボールある？」そんな学生の私が持っている筈ないやん、ポスターに "An Int'l Student's Moving Sale" って書いてあるやん・・・と思いながら、にこやかに「申し訳ありません。」

午後からSunset地域に住む友人たちがやって来てくれました。久しぶりに会うDさん（写真参照）は、大病をされたので、帰国するま

では会えるか懸念していたのですが、体調がよく天気もいいので、日本人の奥さんと散歩がてら覗いて下さいました。クラスメートたち（写真参照）も来てくれ、ペルーの旅行ガイドブック

（今回は大まけにまけ\$5）、苺の飾りを私がつけた傘、私のお気に入りのセーターやTシャツ、文房具などを買ってくれました（感謝！）。



⁹広告を掲載できるウェブページ。 <http://sfbay.craigslist.org/>

地のりがよくない上に宣伝不足！にもかかわらず、お陰で、友人さまさま、なんとか予想通りの収穫となりました。（でも、あまり賑わなかったお陰で、そんなに忙しくなく、友人たちとも一杯おしゃべりできて、楽しかった！）

協力してくれたDさんやPさんは、打ち合わせをしていた時「ガレージセールは効率が悪い上、大変！もう絶対したくないわ」と言っていたけれど、私は、ポスターを書いて飾りつけをしたり、結構エンジョイしました。

でも、帰宅すると右足が痒い！見るといくつも赤い斑点が。帰る前にDさんが自分のジーンズを見て「嫌～ね、蚤だわ。昌子は大丈夫？」「ほら、私にはないわ。」と言っていたけど、蚤にやられたらしいのです。きっとDさんが買っている猫ちゃんたちがガレージでうろうろしていた上に匂いもきつかったから、その蚤にやられたのでしょう。ガレージは、ペットのみならず、埃っぽかったり、古い物が一杯おいてあったりします。ひょんなところにガレージセールの大変さが転がっていました。それにしても、痒～い！

編集後記

山田理事が帰国されました。毎回欠かさずにお便りをいただき感謝でいっぱいです。25年以上も前になりますが、アイオワ州を訪れた時、ホームステイ先でガレージセールに連れて行ってもらったことを思い出しました。のんびりとした習慣がまだ残っていると知りました。それにしても、脅されて怪我をした女の子の話聞いたにもかかわらず、ガレージセールを実行する山田理事の行動力、勇気には驚かされます。（岡田）